



たんぽぽのみなさん

「2023年日本のうたごえ祭典in北海道（8/25（金）～8/27日（日）」が終わり、1か月以上がたちました。北海道も例年になく9月20日過ぎまで暑い日が続きましたが、やっと秋を感じています。

「'23日本のうたごえ祭典」の余韻はまだまだ残っています。

今回の日うたを振り返ってみたいと思います。

何といたっても合唱団たんぽぽにとっては24年前初めて「1999・日本のうたごえ祭典inさっぽろ」が開催されるということにきっかけに、その1年前にアンパンを中心に誕生し、木内宏治さん指導で練習を開始し、全国のたんぽぽの仲間に発信しました。

この時の日うたで印象に残ったのは発足1年の合唱団たんぽぽが合唱発表に44名で「ウラルのグミの木」と「星よお前は」を歌ったこと、石山緑地公園での野外ステージ演奏と、大音楽祭での「襟裳の森の物語」、久しぶりに元民研仲間が札幌で集い、歌った。夜はすすきなので今はなきカラオケ店で98名が身動きできないほどの場所で、もちろん生演奏で歌いましたね。あれから24年、時は流れ、今回、2度目の海を渡っての「2023日本のうたごえ祭典in北海道」でした。

8月24日（木）はたんぽぽ最後の練習とたんぽぽ懇親会でした。

九州のお玉ちゃん13時55分新千歳空港到着！杖はついてはいるもののしっかりした足取り。車付スーツケースを押しながらいつもの素敵な笑顔が見られ嬉しかった。

札幌のホテルに到着後懇親会参加のため、ブラチンと藤部夫妻がお玉ちゃんをお迎えに。

うた祭前の最後のレッスンには飛行機で駆けつけた大塚さんとシャレが参加しました。残念ながらシャレは26日帰宅の計画。交流の部Ⅱは27日のため一緒に舞台は参加できず残念、しかし久しぶりにシャレの声をきき共に練習でき、何十年か？前のレッスン風景を思い出しうれしかった。大塚



さんは27日、舞台に立ち大きな声を響かせました。

その夕方の懇親会には以下のメンバーが集う。九州からお玉ちゃん、東京周辺から大塚正幸さん、藤部夫妻、ノツキ夫妻、シャレ、ニンジン、オオ平、道内勢ではオカチン、ブラチン、スーパー、ジマさん、シャッチャン、さっちゃん、キンタ、ガッパ、ウタッチャン、元ちゃん、ケメ、ボカチョ、カッコ、H席を変えながら近況報告を伝え合いました。この中でガッパは数年前から旅をして、奈良のゴッツに合ったこと。秋田のわらび座に行ったことなど伝えてくれた。

8月25日、日うた1日目は合唱発表（一般B、小編成、女性、交流I）と夕方から芸術の森での野外フェスティバル。

午前中は朝8：00頃から藤部夫妻とホテルロビーで久しぶりのお話。話は尽きない。

その後、一般Bの歌を聴こうとお玉ちゃん、ウタッチャン、カッコ、Hは「ヒタル」へ。北海道合唱団、函館トロイカ合唱団の堂々のうたごえを聴く。京都ひまわり合唱団まで聴いた。南部合唱団の「日本国憲法前文」広島合唱団の「オホーツクの舟歌」に聞き入った。

12時前から芸森への案内の要員でたんぽぽも4人が活躍していた。（ジマさん、ガッパ、ボカチョ、カッコ）ごくろうさん。

古組は15時、真駒内駅集合しバスで芸森へ。売店が作られていて（ボカチョはここでも駐車場案内後に続いて要員）、ここで飲み物、つまみ、弁当等購入して会場へ。開場まで時間があったが、どんどん参加者がバスから降りて集まってきた。開演時は人人人、たんぽぽは3～4つくらいの集団に分かれて鑑賞（シャレは椅子席を目ざとく5人分確保してくれた）。今年の日うたも天候を恐れず計画し、予想通りと言おうか、天も味方し、雨は降らなかった（札幌市街は降らなかったが、芸森は前日一瞬強い雨、

当日は晴れたので乾いたようだ）。芸術の森の野外ステージでの演奏は北海道ならではの祭典、特に三浦恒夫氏が演出を務め、全国郷土合同の「風の太鼓」は三浦氏が作調・作詞・作曲したもの。本人もうたい、演奏もしていた。現役プロとして頑張っている。陽に焼けた笑顔が昔と同じだった。三々五々椅子席、草原で座り会場を埋めた。ここではビールを飲みながら楽しんだ。



5000人が参加したのではと思われる観客と舞台は「今回の“日うた”もやったぜ！」という感じだ。このスケールはこれまで見たことがない。

2部構成の第1部は北海道を中心に。大地の歌。アイヌアートプロジェクトの

アイヌ伝統舞踊を中心に紹介。1部の最後は合唱構成「矢臼別 わが故郷」。自衛隊の演習場に取り囲まれた矢臼別の「平和盆おどり」を思い出す。

第2部は前述の全国郷土合同の創作太鼓「風の太鼓」でスタート。原発回帰に舵を切ったこの情勢の中で「原発ゼロをめざして」をこの地から強く訴える。だんだん暗くなり、会場は盛り上がる。井上鑑氏、ナターシャ・グジー、嵯峨治彦氏らのうた、演奏が続く、ウクライナを想い、世界の平和を希求する。いよいよ暗くなり国鉄のうたごえ、全国働く者の合同ではさらに多くの人々が合唱に加わる。この合唱の力強さは圧倒的だった。



フィナーレは舞台にあふれんばかりの人。祭典テーマソングの「あなたと一緒に」と最後は木内宏治氏訳詞の「北方のうた」が歌われた。会場で人探しは難しいがウタちゃん、ケメ、ボカチョの場所には当麻町からのポンコも参加して交流していた。開演前、駐車場案内のところで二木ジュンちゃんに会い嬉しかった！合同合唱団の中にはジマ、チェリーさん、シマちゃんや、北海道合唱団メンバーでもあるテンポ、トトコも参加していた。まさに歌ってうた祭を楽しむ経験は貴重だったと思う。

閉会后多くの人々がバス乗り場に殺到した。流石にバスは多いものの、この数は一時には無理があるだろう。歌う会で緩和するものもなかなか難しかっただろう。たまたま椅子席組はアカちゃんがいて比較的、家が会場に近く車で来ていた。暗い中駐車場近くまで歩き、真駒内駅まで送ってもらった。シャレ、お玉ちゃん、Hは感謝。



8月26日 日うた2日目は午後から特別音楽会Ⅰ、Ⅱがあり、その間で雪印パーラーでたんぽぽ交流会をと場所を確保していた（ジマさん）。

午前中古組（オカチン、ブラチン、シャッちゃん、ウタッちゃん、カッコ、H）・東京組（藤部夫妻、お玉ちゃん、オオピラ）はアンパン宅を訪れ、さらにさっちゃんも一緒に木内さん宅へ。久しぶりのアンパンや木内宏治さんの写真を拝顔。2人とも「合唱団たんぽぽ」をつくり育てた恩人だ。民研時代も同じだ。木内さんのところには、よくたんぽぽのメンバーが集まったが、その1階の部屋に行き、いろいろな話をしたこと、レコードを聴いこと等を思い出す。時々マーじゃんもしていたようだ。軽い食事をしてみんなで特別大音楽会Ⅰ「平和に向かって」の

会場「ヒタル」へ直行。中嶋公園内の「キタラ」が古くなったので新たに街中に作った音楽ホールで音響に優れているという会場だ。ビルの中に劇場が作られた形でエレベータも独自についていて慣れないとまごつく。



会場1階で全国の合唱団がお店を開いていた。その中の何人もの人が映子さんを見つけ、近寄ってきて笑顔で言葉を交わしていた。

うた協に出ている元ちゃんは、うた協のみなさんとラベンダーを摘みにいき、ポップリを作ったという、その香り袋も販売されていた。



開演の前にロビーで三浦氏に逢う、昨日はごくろうさん、すごい舞台だったことを伝える。

特別音楽会Ⅰ<平和に向かって！>の第1部オープニングは「石狩川憲章」。続く「北海道のステージ」では木内宏治作詞・作曲のコミカルな「積丹のイカはうまいなあ」が演奏される。

映子さんはプログラムに名前が載っているのがうれしいと言っていたのが印象に残る。ゲストの混声合唱団「樹」&THE GOUGEの合唱は素晴らしく、選曲もたのしい。

2部は全国女性合同が「ダニーボーイ」「むかし子どもたちは(さだまさし詞/曲)」を歌う。続く川島沙耶さんの所属する「歌劇団」と「奏楽(そら)」の舞台。花のワルツ(ピアノ四重奏)を奏楽が、オーソレ・ミオを歌劇団が、最後に合同で北海道メドレーとして～北の国から・石狩挽歌・虹と雪のバラードを歌い演奏した。全国シルバー合同の演奏ではセンセは当日体調不良で立てなかったが、東京からかけつけたニンジンが参加



して、「かけがえのない人生(林学)」と「仲間の歌(荒木栄)」を歌っていた。最後に日本のうたごえ合唱団と北海道のうたごえ合同ステージで「平和の子守歌(木内宏治訳詞・伴奏編曲)」「芦別の雪の中を」を舞台狭しの大合唱だった。この中にケメも参加していた。また北海道合唱団員でもあるテンポ、トトコも参加。祭典団員としてチェリーさん、シマちゃんの活躍も大

きく、この祭典で40曲もうたった人もいる。まさに歌って祭典を支えた人たちだ。

特別音楽祭Ⅰの終演後、パーラー雪印でのたんぽぽ交流会。予約していたこと

と時間が遅れていたことでジマさんから早く集まったのコール。久しぶりに娘さんと一緒に遠軽のヒヨッコが参加！アンパン、木内さん宅訪問のメンバーとノツキ夫妻、ボカチョ、元ちゃんや青森のノコさん（1999年の日うたも参加でしたね）、73年卒？カンちゃんも参加。カンちゃんは北海道に行くことを窪地さんに話すと祭典に行ったらいいと、そして雪印パーラー交流会のことも教えてくれたという。ノコさん・カンちゃんありがとう！たんぽぽ便り（ジマさん）がつながりを作ってくれたと思う。1時間はあっという間。写真を撮り、特別音楽会Ⅱのため再度ヒタルへ戻る。



特別音楽会Ⅱ、＜スタートライン＞この第1部では＜全国保育・教育・青年合同＞の舞台上「もう一人行進曲（子どもたちへもう1人保育士を）」「へいわのうた」「今この時代に」を堂々と歌う。＜日本のうたごえ合唱団＞が「星の旅人たち」、「リメンバー」守屋博之さんの迫力ある指揮が素晴らしかった。この合唱に六角の顔があった。



続いて＜ナターシャ・グジー＞さんが「わがキエフ」「防人の歌」「希望の大地」を歌う。

第2部ではうたごえ創立75周年記念6人の作曲家への委託作品が披露。

①井上 鑑 作詞・作曲 組曲「坂道にて」SHIZUGAWA/minami Sanriku 指揮 金井 請

①と②の間で池辺晋一郎 x 木下牧子 x 田中嘉治の鼎談が入り、

②池辺晋一郎 作曲・指揮 「スタートライン ゆめ・希望と挫折」 詩は受刑者 ピアノはたんぽぽの伴奏をお願いしている高田穂香さん

③寺嶋陸也 作曲「1本の木」 作詞 紫野京子、指揮 横山琢磨

④木下牧子 作曲「Peace be With you（「樹形図」より）」 作詞 宮本益光 指揮 渡辺享則

⑤信長富貴 作曲・指揮 「すこしずつ」 作詞 門倉 訣

⑥新実徳英 作曲・指揮 「昨日よりも優しくなりたい」 作詩 和合亮一
そうそう
 錚々たる作曲家。作品のほんの一部のみの演奏は残念。プログラムには作品の意図が書かれていて判り易い。作曲家はこんなことを考えて創ったのだと。



いよいよ終わりが近くなり、「日本のうたごえ祭典引継ぎセレモニー北（北海道）から南（佐賀県）へ」と次への開催地へ引継ぎ。

エンディング「アメージング・グレース」指揮 池辺晋一郎
ピアノ 高田穂香ソプラノソロ 川島沙耶 大合唱（約500人が舞台上で歌った）で幕。（オペラも可能な広い舞台のヒタルだからこの人数を可能にした）

特別音楽会ⅠもⅡも充実した素晴らしい舞台だった。



8月27日 祭典最終日 北海道マラソンのため車が止められるのを避け、電車でお玉ちゃんを空港に送る。「九州から来てくれてありがとう、お元気で」とお別れした。

その後、交流の部Ⅱの会場へ。この日は合唱発表が4か所同時に、一般A、職場、オリコンとたんぽぽが出演する交流の部Ⅱが開催。札幌駅から北海道マラソンの交通規制を避け、遠回りで会場へ。プログラムで合唱団たんぽぽの出番は32番（15時40分頃）。たんぽぽの発表が近づき、リハが終わり本番。やはりまだ不安があるが前を見て歌う。体調不良などでセンセ、マンちゃん、テンポも欠席でちょいと淋しい、大塚さんは頑張って少ない男声に加わって元気を付けた。「合唱団たんぽぽ」の次に「合唱団じゃがいも」でもボカチョとチェリーさんが歌った。後日見た たんぽぽへの講評は優しく励ましてくれていた。レッスンを根気強く指導してくれた六角、そしてピアニストの高田さん、ありがとう！



この日も要員として場外でたんぽぽのメンバーは貢献していた。

最終日も終了に近づき、2023日本のうたごえ祭典in北海道は終了。約1年半の準備、本番を無事終了しほっとしていることだろう。最後は会計と記録整理、佐賀祭典への引継ぎ等でしょうか。ご苦労様です。

合唱団たんぽぽはこの後、名古屋からのミヤ夫妻も来て最後の交流会。当初ガーデンパレスでと計画していたが、北海道マラソンでホテル内のお店が閉店を早め残念。急遽、ノツキキヨちゃんが場所を探してくれた。（ミヤさんに会いたいとさっちゃんはガーデンパレスに来ていたのに場所変更を連絡せず、残念ながら帰ったこと申し訳なかったと思う）。参加者各人が全員話をしてもらったので状況が伝わった。オカチンの現在の活躍と地球のマグマについての話など、又、ミヤの今までの足跡、今後の抱負など興味深く聞く。隣



だったこともあり、ミヤ夫妻からいただいた冊子「千種公園うたの森10年のあゆみ」2022. 11. 30発行でミヤ夫妻の素晴らしい貢献がわかる。この冊子は次のレッスンの時に回すつもりだ。

北海道マラソンの交通規制はすでに解け、約4日ぶりに深川に戻った。



それぞれの理由から今回の日うたに参加できない人が多くなったのですが、「思い」は便りや電話で十分伝わり、共有できたと思っています。道外から参加した皆さんありがとう。お玉ちゃんが九州から杖をつきながら来てくれたのはとてもうれしかった。これまでの道うた祭の時も何度も来てくれましたね。ありがとう。そしてすでに亡くなったオトミさんには大きな影響を受けたと感謝しています。

前回の札幌での「日うた」もよかったが、今回は規模といい、内容といい格段に素晴らしい祭典だった。スタッフを務めた方々の献身に感謝したい。交代で要員を務めた人や、舞台に立った人もごくろうさん。素晴らしい舞台を作ってくれました。最後にわが合唱団たんぽぽの団長、ジマさん。この祭典では実行委員会の会議の議事録をつくる役割を担い、全国の仲間へ情報を伝え、またたんぽぽの中では懇親会、雪印パーラーの確保、要員としても、準備から本番までたんぽぽを、祭典を支えてくれました。ありがとう！

こうした人のつながりが人生を豊かにしてくれるのでしょう。

2023. 10. 1 よき祭典に感謝して カッコ H

